

山いて尊崇されていた。

(クマ公) 太田道灌が長祿元年(一四五七年)

に、江戸城を築いたときに、道灌は日枝神社つまり山王様を厚くお祀りして、江戸城内に勧請したといわれますね。

(隠居) よく知ってるねクマ公は…。その後大分年数が経って、徳川家康が江戸入府の頃まで梅林坂にあった山王社を、文祿元年(一五九二年)に紅葉山に遷座されたんだ。その後、江戸城の拡張工事のとき、一たん半蔵門外の麴町に遷され、再び城内に遷座されたが、万治二年(一六五九年)に、現在の赤坂の台地の上に造営されて今日に至っている。考えてみると、徳川一五代の將軍のうちほとんどの將軍は江戸城内で誕生しているから、將軍家の産土神(うぶすながみ)は山王様つまり日枝神社というわけだ。現在の天皇家の産土神でもあるんで、戦前まで官幣大社だった。

(八千) ところがですねえ、六代將軍家宣公は江戸城内では誕生しなかったんですね。

(クマ公) そのくらいのこと、根津様の氏子にはとくにご存知あずまのすけってわけだよ。

(隠居) 山王様はそういうわけで、三代將軍家光の寛永十二年(一六三五年)に、祭礼の行列が江戸城内にねり込んで、將軍のご上覧を始め得ている。山王祭が江戸の中で特別に扱われてまた背景には將軍家があった。

(クマ公) じゃ神田明神の方はどうなんですか…？

(隠居) 江戸時代より前から、つまり関東一円には例の平将門を信奉する農民や町人が多かった。太田道灌の時代も、北條氏の時代も平将門を祀る、江戸先住民たちは、現在の大手町の近くの将門塚のある芝崎の土地を中心に、平将門を祀った神田明神の旧地があつて、江戸っ子の地主神だった。

(八千) その後は、一度は駿河台辺に遷って、遂には出神田という神田じゃない本郷台地に追いやられたけど、江戸時代には庶民の尊崇する神社だったんですね。ところで明治政府になってから戦争中まで、平将門は逆臣だという評価を受けて、神田明神の祭神からはずされてたんだよ。最近になってやっと三の宮の入母屋型という珍しい御神輿が平将門の来る神輿として復活したくらいだ。

(隠居) そうだよ。神田明神の現在地は考えてみると、本郷台地で、本来なら旧本郷区なのに、あそこだけ、神田区宮本町って言って、神田区つまり今は千代田区なんだね。まわりは全部本郷区湯島(文京区)に囲まれてんのね。

(八千) だから先号でご隠居の言ってたお宮を受け持つ宮頭は第四区の五番組が、今の増岡さんってわけですね。

(隠居) うんそうだ。この神田明神の方は、山

王様より少しおくれて、元祿元年(一六八八年)に江戸城内で始めて、將軍(五代綱吉)のご上覧を得ている。

(クマ公) じゃ神田祭もお上の宮祭だったんですね。少しその辺の事情はわかっていた。

◆二代まつりから三代まつりへ

(隠居) ところで六代家宣公は、元々は甲府宰相の松平綱重の子息の綱豊が、綱吉の甥に当たるので、跡目を継いで六代になって、江戸城西ノ丸に入った。そこでその御屋敷の跡地を、幕府としては大切な土地、記念すべき土地として、五代綱吉が、これも天下普請という形で、各大名たちに命じて造営させたのが、現在の根津権現の建造物であり庭園であるわけで、先号で、池田暉さんが解説されている様に、団子坂上の元根津にあった、「ねづのごんげん」と旧江戸図に出ている古い神社を遷されたわけだよ。

(八千) だから六代家宣公は山王の産子(うぶこ)ではなく、ねづのごんげんの産子というわけなんですね。

(隠居) そこでだ、根津権現の造営が成つて六代將軍家宣公の産土神の大祭ということで、幕府の三奉行のとりし切る天下まつりを根津権現祭にも適用することになった。だから幕府の宮祭ということだ。町民が好き勝手にやる自治祭とは次元が全くちがった。これで、従来の二大まつり(山王祭と神田祭)に、新たに根津権

現祭が加わって、「江戸三代まつり」という呼び名が江戸っ子の間で公認され、使われた。きょう一日じゃとても説明しつ切れないんで、また次のときに喋るつもりだけど、根津権現祭は未曾有の山車五十台が江戸全府から参加した天下祭だったが、幕府の都合や経済上の理由で、正徳年間（宝永年間から延期されて）に一度だけ行われた。その有様は、江戸の後期刷物となつて現在にまで伝わっている。次回は、山車のこと、御神霊のことなど具体的に話すつもりだよ。

「おしるこ」の会雑感

実行委員 大畑清心

正月も過ぎ、寒さ厳しい二月となりまして、恒例の町内餅つき大会が開催され楽しい一日を過ごす事が出来ました。

本年もこの時期になり、町会役員会にて、この「イベント」に付き協議され、今年は趣向を代え「おしるこ会」として行う事となりました。はじめての事でもあり、どの様な形態にするか、お碗は、お餅を焼く設備等々の問題や、どの位の人数分を用意するのか、難問は次々と出て参りました。

二月十六日（日） 当日を迎え、前夜来の雨が降り続く中、役員の方々が九時半に集合、

テント張り等の設営に掛り、婦人部の方の応援に以つて定刻十一時開店の運びとなる事が出来ました。

雨の中、三々五々と言いたい処ですが、一人二人とぼつぼつ見え、天を仰いで雨の降り止むのを待つばかりでしたが、昼頃には心配した雨も止み、役員が町内の勧誘に向き、ようやく、大勢の参加を得て、会も盛況となり、終了時刻の十四時には、予想外の完了となりました。参加された方々の反応は、大変気になる処ですが、寒い時期の温かい「おしるこ」は、好評でありました。

又、炭火で餅を焼きながらも、楽しく語らい情報交換等、親しく触れ合う場とする事が出来、大成功であったと自負して居ります。

今後、大勢の方々の参加しやすい企画を練り、活発な町会活動の一端を担って行きたいと切望して止みません。

町会活動の概要

平成八年十月中旬から平成九年二月初旬まで

総務部

10/21 「赤い羽根」共同募金御礼状、本日、各

掲示板に提出した（16箇所）

10/26 祭礼の締めくくりとして「反省会」を常

端寺で開催、出席者21名

10/28 「秋の火災予防運動」の回覧用チラシ3種類、各役員あて配布、同上のポスター、各掲示板に掲出。

平成8年度、文京区地域振興事業功労者の「推薦書」区に提出、1名

11/13 竹中俊之様の申し出により、当地区に担当役員1名増やして欲しいとの事については、海老原よし雄様にお引き受け戴きました、なお、引継ぎは1月からお願いをしておりますので、役員各位にお知らせをしておきます。

11/15 「事業系ゴミの有料化」に伴う清掃局の広報ポスター掲示。

11/18 長期療養中の北部、竹中様への役員各位の見舞金並びに12月14日のご苦勞会のお知らせを文書により配布する。

11/19 竹中様の自宅へお見舞いに伺い、役員各位から戴いた病氣お見舞金¥3500円をお届けして参りました。

11/23 門松絵ビラ（480枚）本日、納品されました。

北部役員、池沢様も9月末から長期に亘り入院中との話しを伺いましたので、重なりましたが早々に役員各位宛、お見舞いの案内を文書で通知。

12/5 門松絵ビラ、地域別に仕分けをして連絡員宅へ配布しました。

12/13 根津・向丘地区「ごみ問題懇談会」向丘生涯学習館、午後1時半3名参加

12/14 12月役員会を兼ねて「ご苦労会」を行いました、32名参加

12/16 1月15日、当町会員で本年成人を迎えられる方は左記の方々です。

田上奈緒子様、市角寛之様、園田奈奥美様、村山和絵様、小林愛子様、大畑ゆみ子、竹中美恵様、山田修平様、

1/13 文京区町会連合会、新年交歓会、区民センターにて、午前11時

1/15 町会会員のご子弟で本年、成人式を迎え方に町会として祝品を贈呈いたしました。該当人員8名

1/24 向丘地区町会連合会新年交歓会、かねこにて、午後6時

2/8 ポスター掲示、税務署「確定申告の周知」、町会「おしるこ会」の周知

防火防災部

11/10 「防災コンクール大会」駒本小学校校庭に於いて開催、午前9時から

12/20 町会夜警実施計画書、阪本防火部長から本郷消防署あて提出

12/23 本日から29日まで延べ7日間、歳末夜警を実施する。期間中には種々ご協力並びにご厚志を頂き有難うございました。

1/12 本郷消防団、出初め式、区民センターにて、午前10時半

1/16 防火関係5団体、新年交歓会。

交通 部

1/9 駒込交通安全協会、新年交歓会。

「蓬萊だより」台46号10月30日付
本日、連絡役員あて配布

婦 人 部

1/31 婦人部新年研修会

☆婦人部員として新規に入られた方々が
おられるようです。

青 年 部

10/27 青年部主催、「町内親睦ボウリング大会」を開催、後楽園ボウルにて

防 犯 部

1/30 駒込防犯協会、新年交歓会

計 報

当町会の方で平成八年十月から本年二月までにご逝去なされた方のお名前は左記の通りでございます。謹んで哀悼の意を表わし、心よりご冥福をお祈りいたします。

記
竹中 一馬様 常岡 裕光様
棚橋 勝太郎様 堀江 サイ様

会計よりご報告

10/14

「赤い羽根」共同募金、募金会あて
納金、¥186、200円

内訳：南部110件 75000円

中部 73件 56000円

北部 80件 54300円

10/30
本日、町会会計事務の引継ぎを行う
川西氏から堀江氏へ、

今後、会計に関する事は堀江広明氏の担当となりませう。

「歳末助け合い募金」本日正式領収書受領しました。

252件 金額¥189、260円

編集後期

平成九年のお正月を迎えたと思いましたがまたたく間に桃の節句となりました。時の流れの早さは昔から伝はれていることですが色々な分野での情報伝達の早さが吾々の日常生活を否応なしに変えています。近所隣りのおつき合ひも、子供達の遊び方もつい分変ってしまいました。その事のよし悪しは別に考えるところとして、人の心にふれ合ふ機会をつくる努力はお互いに無くしたくないものです。

編集委員

小林音吉、川西正造、猪熊良晃
倉田幸一、池田 暉